

建築主：岡田 智子
 設計：株式会社 中村工務店
 施工：株式会社 中村工務店
 所在地：勝浦市宿戸

～家族の歴史を繋ぐ住まいのカタチ～

古民家あらし



ダイニング

古民家と聞くと、建設された当時の建築様式を維持したまま保存され、タイムスリップしたかのような印象を導く空間を想像する人がいるかもしれないが、この作品はそのようなイメージとは一線を画すものである。300年以上続く農家であった一族が、100年以上住み繋いできた空間は、特筆すべき派手なものがあるわけではないのだが、時代ごとの主の好みや生活スタイルの変化に伴い部分的な改修を丁寧に重ね、その時々が必要で空間にちょうど良い家具を選び生活を営んできた歴史が感じられるものであった。それゆえに、一つの建築様式では言い表しがたく、時代ごとの風情が混在していながら、うまく融合

していてなんとも心地よい。床板がきしむ部分があり、訪れる子供が走っても安心のように修理するのだと次の改修計画を語る今の主の姿に、住まう人へのとても大きな愛情によって、都度都度に丁寧な改修が重ねられてきたのだと気付かされ、より温もりを感じ、愛しむ気持ちにさせられた。

近年、千葉県に限らず古民家再生を謳うプロジェクトが多くみられる。建物の躯体を活かしてはいても、脈絡のない改修は、生活の履歴が分断され、そこに流れている空気感を失っていることがある。「壊してしまうのは簡単だが、壊してしまったらその家の歴史も失うような気がしてならない。形を残すことでその家の歴史が受け継がれていくのだと思う。」と主が言う通り、本作品は歴史を紡いでいるのだろう。特別なストーリーではない普通の暮らしと共にある建築を住み繋ぐことの大きな意味を伝える良い作品である。勝浦の里山に長く続いていくことを願っている。

(加藤 未佳)



全景



ダイニング天井

(撮影全て/かずま 草原学)